



# 全部は出来ない。しかし、全部に通じる。 新しいことはしない。しかし、新しくする。



大阪YMCA 会長  
なかがわ よしひろ  
中川 善博

かつて、青少年を育てる活動からスタートしたYMCAは、今日では幼少期から高齢期まで幅広い人々の全人的成長を目指した働きに広がっている。YMCAの歴史は、こうした働きや活動が輝いていた時代や危機に翻弄された期間など、時代や社会の影響を色濃く受けてきたが、その間も一貫して国際的な青少年団体、社会教育や学校教育団体として社会に認知されてきた。しかし、人々のライフスタイルや価値観の多様化、経済や社会の構造的変化に十分対応できず、YMCAの発信力・ブランド力の低下は避けられていない。

いま全国のYMCAは、その使命と役割を再確認し、発信力を高め、社会的課題に立ち向うため日本YMCA同盟中期計画(以下、中期計画)を取り纏め、自らを変革しようとして動き始めている。全国のYMCAがこの計画に取り組もうとする背景には、急激に変化する時代の中で、YMCAがもてる宝を眠らせていないか、事業やプログラム、資源や組織が、社会のニーズに柔軟に対応しきれず、YMCAブランドの認知度をはじめ活動や組織の活力が弱まりつつあるのではないか、という危機感がある。

中期計画(2014~2016)は、YMCAブランドの再生を旗印にYMCAの革新を目標として、5つの方針を掲げ、「全部は出来ない。しかし、全部に通じる。新しいことはしない。しかし、新しくする。」を基本姿勢として打ち出した。

中期計画や構想は、組織が達成すべき目標を明らかにし、その道筋を示す戦略プランに他ならない。定められた計画や構想を実現させていくには、そこに示された理念や考え方・方針をしっかりと受け止め、具体的な中味を肉付けしていくことにある。私達には、そうした方針や考え方を具体化させ実行していくことが課せられている。

中期計画に呼応する大阪YMCAの取り組みとして、ネットワーク型福祉社会の実現を目指す「VISION 2020」がある。ビジョンを受けて大阪YMCAは、公益法人改革に伴う組織改革、4法人の一体運営により地域社会の課題に応える新しい働きや活動拠点の確

保、青年を対象としたグローバルな取り組み等を進めている。言うまでもなくYMCAは、プログラムや事業の多くをボランティアが関わり支えているが、ボランティア団体としてのYMCAこそが、特色であり力の源泉でもある。このボランティアを、従来の会員組織から今日的な在り方に捉え直し、個々の活動やボランティア協議会・大阪YMCA大会等を通じた活性化を試みているが、これも時代の変化に対応した大阪YMCAのチャレンジの一つである。

いま大阪YMCAでも、事業やプログラム、有する資源や組織を再整理し再構築するブランディング作業を進めている。中期計画の目標であり、YMCA革新の鍵となるブランディングは、その作業プロセスで形成される意識の共有がポイントである。このブランディング構想を、大阪YMCA全体で共有することにより、変革への意識形成を高めていくことが求められる。そのためには、YMCAに関わる一人ひとりが、自分の立ち位置や働きを見直し、問題意識を深めて変革への強い意思と関心を持ち続けることが、中期計画やビジョンの達成につながる。

中期計画やビジョンが目指す本当の終着点は、一人ひとりの意識改革であり意識変革にあると言える。この変革の意識が大阪YMCA全体に広がった時、とてつもないパワーが生まれるに違いない。そのようなパワーを是非とも生み出したいものである。

INDEX

・全部は出来ない。しかし、全部に通じる。 新しいことはしない。しかし、新しくする。	1P
・座談会「YMCA ブランディングをどう進めるか」	2~5P
・グローバル研修会報告	5P
・食育コラム・早天祈禱会・会員・賛助会員 ・2015年度基本方針・年間聖句・讃美歌	6P

## 大阪YMCAの使命

- 大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。
- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭・地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人の力と力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。



中道 基夫 なかみち もとお

日本YMCA同盟理事、  
日本YMCA同盟中期計画推進委員会副委員長、  
神戸YMCA代表理事



中川 善博 なかがわ よしひろ

大阪YMCA会長、  
日本YMCA同盟前会長



岩坂 二規 いわさか なぎ

公益財団法人大阪YMCA理事、  
日本YMCA同盟評議員、  
関西学院大学教育学部准教授



末岡 祥弘 すえおか よしひろ

大阪YMCA総主事



西村 麻衣 (旧姓:近藤) にしむら まい

大阪YMCA 国際専門学校  
表現・コミュニケーション学科  
スタッフ



進行:船戸 輝久 ふなと てるひさ

大阪YMCA 本部事務局  
スタッフ

「オールジャパンYMCAの革新を！」…

日本YMCA同盟中期計画(以下、中期計画)の取り組みが全国のYMCAと共に始まるとうとしています。大阪YMCAもそれに呼応し、協力していくことが2015年度の事業方針で発表されました。今後の取り組みについて、6名の方が話し合われた模様をお届けいたします。

## 【特別企画】座談会

# 「YMCAブランディングをどう進めるか」

「中期計画」はYMCAの構造を  
変革するための計画

いいことをしているのに「YMCAって何しているの？」に一言で答えられない

**船戸：**中期計画を今後どのように進めていくのか。また、大阪をはじめ全国のYMCAはどのように進めていけばいいでしょうか？中道さんより日本YMCA同盟(以下、同盟)の中期計画を作るに至った経緯からお話してください。

**中道：**今回の同盟の中期計画は、以前の中期計画とは異なり、これまでの歴史や背景をふまえた上での計画になっています。

背景として、各都道府県のYMCA(以下、ローカルY)の共通の問題(事業やプログラム、有する資源や組織の再整理)、また「YMCAって何ですか?」という外部からの問いに一言で語れないということがあります。何かいいことをしているようだけど、うまく伝わらない。

アメリカのYMCAでブランディングによって一定の成果をあげていますが、それを真似てラッピングだけ変えてもうまくいくわけではありません。そこで、日本のYMCAの抜本的な構造を変えていくために、今回の中期計画を作るに至りました。

**中川：**従来の中期計画は網羅的であり、ローカルYにとってはあまりピンとくるものではありませんでした。一方でYMCAムーブメントが弱っている危機感があります。また、「YMCAって何ですか?」という問いに答えられないのは、一人ひとりがYMCAのことを捉えられていないということだと思います。また、「英語学校」とか「予備校」など、世の中には昔のイメージが強く残っているということは、抜本的な改革をしていかなければならないということです。

**岩坂：**今までの中期計画の評価などはどのようにされていたのでしょうか？

**中道：**同盟の中でなされていたと思います。しかし、それはどこか同盟の問題で



あって各ローカルYの課題とうまくリンクしていなかったのではないかと思います。今回の中期計画もどちらかというと理念的なところが強いのですが、まず「次の3年に向けての体制作り」というところに強調点があります。これからは、評価したことから次に向けて「作り上げる力」を養っていかねばなりません。まずは、同盟で作ったものを各YMCAで取り組んで、ローカルYで各々が評価していく必要があります。

**岩坂：**同盟が立てた計画をローカルYに投げかけて、ローカルYが実行していく。また、ローカルYのブランディングタスクチームが考えたことを、誰でも使えるものにして、全国に広げていければいいですね。ローカルYの課題を、どうやって全国でたすけていくかということが問題ではないでしょうか？達成のための方法はどのように決めているのでしょうか？

**中川：**かつては、ローカルYも同盟もピラミッド的なオートノミー(=組織の自律的な意思決定)の問題がありました。同盟中心のビジョン的な中期計画をどのような意思決定システムとして実現していくかという問題がありました。現在は、同盟が諸会議を通して各YMCAに直接持ち帰って課題に取り組むという方法をとっています。それによって、中期計画を実行して、オールジャパンで解決していきたいと思います。

**末岡：**「YMCAって何ですか?」という問いかけにどう答えるかという問題は、北米YMCAも同じです。大阪YMCAも130年以上の長い歴史の中で、今がもう一度脱皮する時なのではないでしょうか。今、全国に共通した課題が明確にあり、今までとは動きや理解の仕方が違ってきています。スタートとしては、今までとは違う動きになっていると思います。

## それぞれのYMCAのストーリーを集めたい

### 「YMCAってカッコいい!」と 思えるものができたらいい

**西村:** 中期計画(ブランディング)の取り組みは、まだ若いスタッフには十分に伝わっていないと思います。スタッフ同士でYMCAを語り合う場を持つだけでも、YMCAに対する意識が変わるのではないかと思います。自分がYMCAを通して得た経験を語ることが大切になってくると思います。私が所属している表現・コミュニケーション学科(以下、表コミ)は、今の自分の思いや仕事について語る場や、スタッフ同士で願いや想いを共有する機会があります。

**中道:** それぞれのYMCAストーリーを集めたいですね。ローカルYのストーリーを全国に広げ、それをオールジャパンとして共有できればいいですね。

**西村:** 先日表コミの高校生が、卒業公演のCMを自分たちで作って、それがとてもいいものでした。やっぱりムービーなどは強く伝わります。「YMCAってカッコいい!」と思えるものができたらいいなと思います。

**中道:** やはりデザインと新しいアイデアはとても重要になってくると思います。お金はかかりますが、ローカルYで1つ作れば全国で使えるというようなことができればいいですね。

**末岡:** ブランディングは、すでに北米YMCAでもされています。北米のブランディングの手法は、日本の中でも使えると思いますか?

**岩坂:** 北米がトップマネジメントでできるのは、YMCAに対する社会の認知度の積み上げられた歴史が違うからです。企業や行政からYMCAに誰が入ってきて、ある程度YMCAについて語る事ができる。日本は風土的にも、何か仕掛けがないと外部の方が入ってのトップダウンは難しいのではないのでしょうか。

**西村:** 全国YMCAの広報部があったらいいと思う一方で、全国でやるのは大変だとも思います。せっかくユースがたくさん集う場所なので、彼らの力を借りて広報していきたいですね。

**中道:** YMCAはたくさんあるけれども、外部から見たらYMCAは一つなんです。例えば、各ローカルYのキャンプ場のホームページはあるけれども、YMCA全体のキャンプ場を一望できるホームページはない。使う側からしてみれば、一つのサイトから全国のYMCAキャンプ場が選べたらいいですね。



**末岡:** それぞれがYMCAを語る場にもっと変えていかなければいけませんね。人から言われてではなく、皆で変えていけるものはないのでしょうか?

**船戸:** 大阪でもブランディングを進めています。もうひとステップしないといけないですね。それぞれの現場では断片的にYMCAを語ることはできますが、それらをわかりやすくまとめたり、全体に発信していく必要があります。

**中道:** マルティン・ルターの理念は、「信仰義認」や「信仰のみ、恵みのみ、聖書のみ」という簡単な言葉によって全世界に広がっていきました。YMCAのブランディングも簡単な言葉で言えるものを創りたいですね。

**末岡:** そこまで、シンプルに熟成させるためには、かなり時間もかかると思います。作業的分量も必要になってきます。どれくらいでそれが可能になっていくのか、考える必要があります。

**中道:** ブランディングの専門家からも、まずYMCAの中から20~30くらいの言葉を絞り込んで、ある程度キーワードが出てきたら、プロとして支援できると言われました。また、一度決めた言葉でずっといくのではなく、常に変わっていくもので、10年後にリブランディングすることも必要になってきます。

**岩坂:** 表コミのように、若い人たちがネット上で告知できるものを作れるといいですね。また、表コミのスタッフミーティングでできていることを、全事業所に広げていければいいなと思います。

**西村:** 高校生事業にはキャッチコピーがあり、「安心できる環境と関係性、生涯にわたる出会いと成長、多様性の尊重」というのが名刺の裏側に書かれています。それが外部訪問の時に大切にしていることを伝えやすいですし、何よりも全スタッフで認識を共有できているという思いがあります。どの事業所でもキャッチコピーがあると、何のためにYMCAがこの事業に取り組んでいるかを外部の人たちにも伝えやすいと思います。

**末岡:** 表コミのキャッチコピーは、現場で実際に語られている言葉から出てきています。キャッチコピーというのは、ただ外から持ってきただけでは効果はありません。表コミには、YMCA少年事業の歴史を受け継いだ流れがあり、そこにはYMCAの普遍性が表れています。

**中川:** ウェルネスや学校など、それぞれの現場から生まれたキャッチコピーがあればいいですね。

**中道:** 一人ひとり違う業務に携わっているのですが、みなで共通して、例えば「私たちは、人を変える仕事をしているんです」というようなことを言えればいいですね。それが一番YMCAらしいと思います。

**西村:** 今教職員専用サイトに「希望を持って共に生きる社会をつくる」という言葉がトップ画面に出ています。全スタッフが常に見えるようにするだけでも、意識の持ちようが全然違うと思います。



## 大阪YMCAでは、どのように進めていくのか

### 日常的にYMCAを語っていくことが大切。 簡単な言葉で言えるものを創りたい

**岩坂:** YMCAを語るには、どういうやり方がいいと思いますか?

**中川:** 日常的にストーリーを語る場を持てればいいですね。スタッフそれぞれがどういった問題を抱えているのかなど声を集めたりするリサーチやアンケートも行っていく必要があるのではないのでしょうか。

**岩坂:** そうですね。日常のそういう積み重ねの成果が大阪YMCA大会などで表現されるといいですね。

## キーパーソンの養成とスタッフ研修が必要

**末岡:** ところで、中期計画を進める上でキーパーソンをどう育てるのでしょうか?

**西村:** 表コミのスタッフ間では、皆でさらに良くしていこう、そのために何を変えるべきか、という意識は強くあると思います。皆で変えていく意識がなければ、外部の方にYMCAってどういうものなのかは伝えにくいと思います。どの部署にいても、YMCAの理念を語り合い、定期的に確認し合える機会がほしいですね。



**中道：**スタッフ研修が課題になってくると思います。こういう人を育てたいというビジョンを持ち、YMCAはどのようなのかという根本を伝えられるような研修です。研修を受けることで、YMCAを伝える力を中堅スタッフから打ち立てていく。これは、すなわちキーパーソンの養成となります。

**西村：**私は同盟主催の地球市民育成プロジェクトに入職1年目に参加させてもらいました。そこで、世界の若者と共に学びを深め、語り合い、さらに自分の思いを行動に移す方法を学び、自信を得ました。特に、YMCAは海外につながってるんだということを若いスタッフが感じられる機会があるといいなと思います。



**中道：**スタッフ研修を専門職や、さらには会員にまで広げて、全体がYMCAを語れるようになるまで育てたいですね。

**船戸：**研修はいろんなレベルで実施し、スタッフ研修を目玉にできるぐらいのものにしたいですね。

## 成功例を全体へ標準化することが重要

**岩坂：**表コミの取り組みモデルを他の事業所や全体に標準化し、広げていく方法を考えたいですね。一昨年からの大阪YMCA会員制度改革をきっかけに、職員・教員とボランティアが一体となってYMCA事業をすすめるために、各々の立場を超えてより良い形と方法をもっと試行錯誤していきたいと思っています。

**中道：**YMCAの持っているいいものを外に伝えられるといいですね。ひと昔前は、“ザ・YMCA”みたいな人がいて、YMCAを伝え、それに多くが共感していましたが、今はそれを専門知として、言葉化し、共有し、標準化していくことが必要になります。

**末岡：**時代にあった体系的なことも考えないといけません。

**船戸：**標準化ということだと、例えば日本語学校のチューター制度はもう30年くらい前に考えられたシステムで、ある意味標準化されています。これはYMCAの宝だと思いますが、次の時代につながるようなパワフルなシステムを作っていくことも、ブランディングには重要になってくると思います。

**末岡：**今大阪YMCAには4法人ありますが、今後は法人間をまたぐようなマネジメントシステムに作り変える必要があると思います。普遍性や専門性を大事にしつつ、ボランティアなど地域の方をどのように巻き込んでいけるかがポイントになってくるのではないかと考えます。

## グローバルな青年を育てる

# YMCAのプログラムの多様性こそ グローバル 世界に同じ思いで行動している人がある

**末岡：**焦点をどこにあてるかも課題です。今大阪YMCAでは、「グローバルの青年を育てる」ということに焦点を当てています。

**船戸：**もともとYMCAのグローバルに対するモチベーションは、どこにあるのでしょうか。また、今後どのように展開していこうとしているのでしょうか？

**岩坂：**近年は若者の内向き志向が言われていて、若者が海外に行きたがらない、国内がいいという傾向があるとされています。YMCAでは、もともと1980年代から始まった行政主導の“国際化”とは一線を画して、開発教育の導入の窓口になったり、グループワーク理論を新たな教育・福祉分野に応用したりと、さまざまなレベルで国際化に取り組んできました。かつて、進学一

辺倒の受験競争の中でYMCA予備校がそのアンチテーゼとして、一人ひとりの人格形成を大切にしながら、現在の“グローバル化”を多様で内なるものにリードする責任があるのではないのでしょうか。

**西村：**YMCAの強みは、やっぱりグローバルだと思います。他の団体でも似たような地域貢献プログラムが行われていますが、YMCAが他と違うのは、世界のYMCAと連携してその地域の課題にも向き合えること。世界各地で同じ思いで行動している人がいることを実感できるのがYMCAの強みだと思います。

**末岡：**グローバルな人材=英語のできる人ではありません。英語はあくまでツールで、本質的なイシューについて、未来の可能性を探っていくことができる人が求められます。海外のYMCAが考えていることを一緒に考えていく、それがグローバルスタンダードに繋がるのではないのでしょうか。



**岩坂：**多様性の尊重は、グローバル化を支える重要な概念だと思います。単一的なアイデンティティに陥りがちな日本社会の風潮の中で、YMCAのプログラムはいろんな角度から多様性を保証するものであることが重要です。

## ブランディングの今後の展開

**船戸：**大阪YMCAでは、数年前から北米YMCAのブランディング研究を行い、この1年は同盟の中期計画とも連動する形で、タスクチームでブランディングに取り組んできました。一部北米の手法を使いながら、「ブランドアーキテクチャ」を提案しました。これをベースにして、次のステップに進んでいけたらと考えています。

**中道：**内容的にはこれでいいと思いますが、どうやったらボランティアの人もYMCAを一言で言えるようになるかも課題になります。子どもでも覚えられるものではないといけません。

**岩坂：**名刺に3つ入るぐらいの長さでできれば、丁度いいですね。俳句や漢字一字で表すとか。

**中川：**年間のキャッチフレーズがあってもいいかもしれませんね。よそごとにならないよう、新しい人を巻き込んで、その人たちが充実感や達成感を持てるようにしなければいけませんね。満たされないところがあるならば、それを一緒に考え、YMCAとして共有して新たな担い手を作っていかなければなりません。理事会などが打ち出すだけでは、限界があると思います。また、ブランディングを進めるための要は、YMCAで変わった人の意識を、どのようにして広げてくかということにあると思います。

**中道：**それぞれの「YMCAのここが好きです(I LOVE the YMCA)！」を蓄積して行って、いろんな人の思い、みんなが思っていることを吸い上げ、その一つひとつをつなぎ合わせていくなかで、オールジャパンとしてのYMCAの新しいイメージが出来上がってくるのではないのでしょうか。

**岩坂：**もう一つ、リクルートの部分に、ブランディングの成果が最も表れてくると思います。就活というのは、一般の、とくに若い人が最もYMCAを求めてくれる場のひとつだからです。スタッフやボランティアに限らず、YMCAで活動したいと願う人がどういうことをしたいかを汲んでいくことが大切になってくるのではないのでしょうか。

**中川：**ブランディングを通して、もう一度、YMCAのミッションを捉え直すいい機会になるのではないのでしょうか。

### 大阪YMCAブランドプラットフォーム

1 大阪YMCAの使命 2 VISION2020 3 ブランド・アーキテクチャ

私たちの約束：すべての人が希望を持って共に生きる世界を築きます。

Cause

事業活動の目標：●未来を切り開く青少年の成長をサポートします。

Area of Focus

●思いやりで繋がる社会を創ります。

●地球市民として平和のために行動します。

# 大阪YMCAブランディングのイメージ



## 大阪YMCA VISION 2020 (骨子)

「希望を持ってともに生きる社会」の実現を目指して

### I. 大阪YMCAの願い

#### [A] ネットワーク型福祉社会を実現する活動

私たちは人が中心となるネットワーク型福祉社会を実現する活動を展開します。

#### [B] 青年を育むための活動

私たちは未来に希望をもち、チェンジメーカーとなる青年を育みます。

### II. 活動を推進する組織とシステム

社会環境の変化をつかみ、常に自己革新を行うスタッフとボランティアからなる組織。

## 日本YMCA同盟中期計画 (骨子)

2014～2016年度

1. YMCA全事業のリブランディングとミッションの明確化
2. スタッフ研修の充実、強化
3. 全国的広報戦略の策定
4. 全国YMCAの財政健全化、ガバナンス強化
5. 日本YMCA運動としてのガバナンス強化



## “知ることが何かをする原動力になると気付いた” 中日本YMCAグローバル教育研修会

大阪YMCA 本部事務局 スタッフ **船戸 輝久**

去る2月21・22日の1泊2日、六甲山YMCAにて第15回中日本地区YMCAグローバル教育研修会が開催されました。昨年に引き続き、中尾秀一さん(難民事業本部関西支部支部長代行)をファシリテーターにお招きし、滋賀、京都、奈良、和歌山、神戸、せとうち、大阪の各YMCAから高校生、大学生のユースボランティア、若手スタッフを中心に総勢34名が集いました。

初日は、滋賀YMCAのリーダーによるアイスブレイキングの後、フランスの週刊紙「シャルリー・エブド」への襲撃事件を題材に「表現の自由」の問題をディベートによって考えました。夜のセッションでは、世界YMCA大会(せとうち)、日本YMCA同盟の地球市民育成プロジェクト(和歌山)への参加報告やUNI-Y、i-COSY(大阪)の活動報告がされ、その後の懇親会では参加者同士の交流を深めました。

2日目の朝の集いでは、ユースボランティアによる「混迷のこの時代、何を軸に生きていくのか」という問いかけに一人ひとりが考える時間を持った後、この3月で神戸YMCAの総主事を勇退される水野雄二さんからキリストの平和について、過酷な戦禍を生き延びた御両親のエピソードを交えた示唆に富むメッセージをいただきました。この日のセッ



ションでは、日常の中でグローバルを考える視点を養うことを目的に、マイノリティの視点から見た社会について、難民として日本で過ごす在日外国人、海外で生活することになった日本人のそれぞれの立場で、実際に起こった問題をロールプレイングによって考察した後、国内の朝鮮学校のドキュメンタリー「いま在日を生きて」(NHK Eテレ2012年放送)を視聴し、嫌がらせやヘイトスピーチなどの差別に直面して、朝鮮人としてのアイデンティティが揺らぐ子どもたちと教師や父母たちの取り組みについて知り、私たちが隣人としてできることが何かを考えました。

参加者からは、「人の考え方の違いについて深く考えさせられた」、「知ることが何かをする原動力になると気付かされた」、「明日から活かせることが見つかった」等の声をいただき、短くも充実した2日間となりました。

実施にあたり助成をいただいたワイズメンズクラブ国際協会西日本区様にこの場を借りて御礼申し上げます。



## 春野菜を身近に感じましょう

YMCAとさぼり保育園 スタッフ にしかわ 西川 さおり

2015年度がスタートしました。

周りを見渡すと色とりどりの花が咲き、木々には若葉がみられる季節になりました。

花や草木には季節によって変化があるように、野菜にも季節があります。

昔に比べて今は技術が進化して年中出回っている野菜

が多く、季節感が薄れてきていますが、それぞれ味に違いがあります。

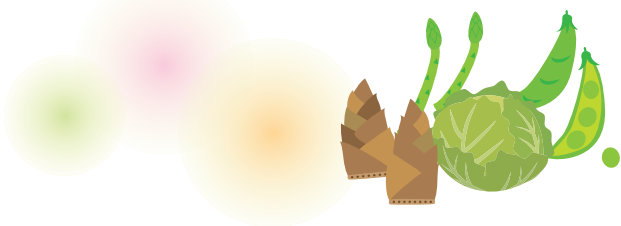
夏はきゅうりやトマトのようにみずみずしいもの、秋は太陽の光を浴びて甘みの多いさつま芋、冬は気温差によりうまみが増す大根やほうれん草があります。

それでは春野菜の味はどのような味でしょう？

春野菜といえば、たけのこ、たらの芽、ふぎ、えんどう豆と、えぐ味や苦み、青味の強い味が特徴です。これらは、厳しい冬を耐え忍び温かくなって「芽」を出して、その芽が若いいため独特な味になっています。

毎年とさぼり保育園では、この時期に「たけのこの皮むき」「えんどう豆のさやむき」のお手伝いをお願いしています。子どもたちはとても楽しみながらお手伝いしています。むいたたけのこやえんどう豆は、ごはんに入れて提供し、味を知る経験を大事にしています。たけのこやえんどう豆の苦手な子どもも、「自分がお手伝いした」から「ひと口だけ食べてみよう」という気持ちになってくれています。

ご家庭でも、春野菜に触れて季節を感じてみましょう。



## 大阪YMCA早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

■第264回 日 時…2015年4月17日(金)7:30~8:30

説 教…なるおか ひろあき成岡 宏晃さん  
(東豊中聖ミカエル教会 執事)

場 所…大阪YMCA会館 10階 チャペル

問合せ…大阪YMCA 本部事務局 総務

TEL:06(6441)0894 E-mail:info@osakaymca.org

## 2015年度 大阪YMCA 基本方針・年間聖句・年間讃美歌 が決定しました

決定に至る思いを共有いただき、心一つにして  
新しい年度を歩みましょう!

2015年度 大阪YMCA基本方針  
「一人ひとりが互いにかがやき、  
社会につながるYMCA」

思い: 一人ひとりの個性や賜物が活かされ・認められ、社会・世界につながる2015年度にしたい。

2015年度 年間聖句  
「喜ぶ人と共に喜び、  
泣く人と共に泣きなさい。」

(ローマの信徒への手紙12章15節)

思い: イエスは弱く虐げられた人々を愛し、世の不正義と戦われました。今日も尚、国内外で日々、多くの人々が苦しみ悩みを抱えています。YMCAに集う私たちは小さくされている人々と共に歩み、また真の平和を実現する団体であることを自らが再確認し、広く社会に広めたい。

2015年度 年間讃美歌  
讃美歌21-18番  
「こころを高くあげよ!」

思い: 年齢・性別・固有の状況は多様ですが、だれもが共に明るく誇らしげに、心を高くして神に喜ばれる生き方をしたいと願います。そして、元氣よく前向きに歩みたい。

2015年1月29日 理事長協議会承認

## ■ 会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2015年2月度報告

### 【継続会員】

浅井 駿  
安藤 格  
井田 千尋  
市田 恒夫  
伊藤 俊彦  
猪瀬 正雄  
岩倉 葉菜  
掛谷 太郎  
蒲田 泰宏

神谷 尚孝  
岸本 健次  
金 秀男  
越野 滋明  
佐古田 修  
里見 公利  
神社 洋一  
鈴木 良洋  
瀬戸 孝太郎  
玉岡 聡子

吉田 清三  
米本 陽香

### 【継続賛助会員】

株式会社イマイチ  
株式会社藤木工務店

